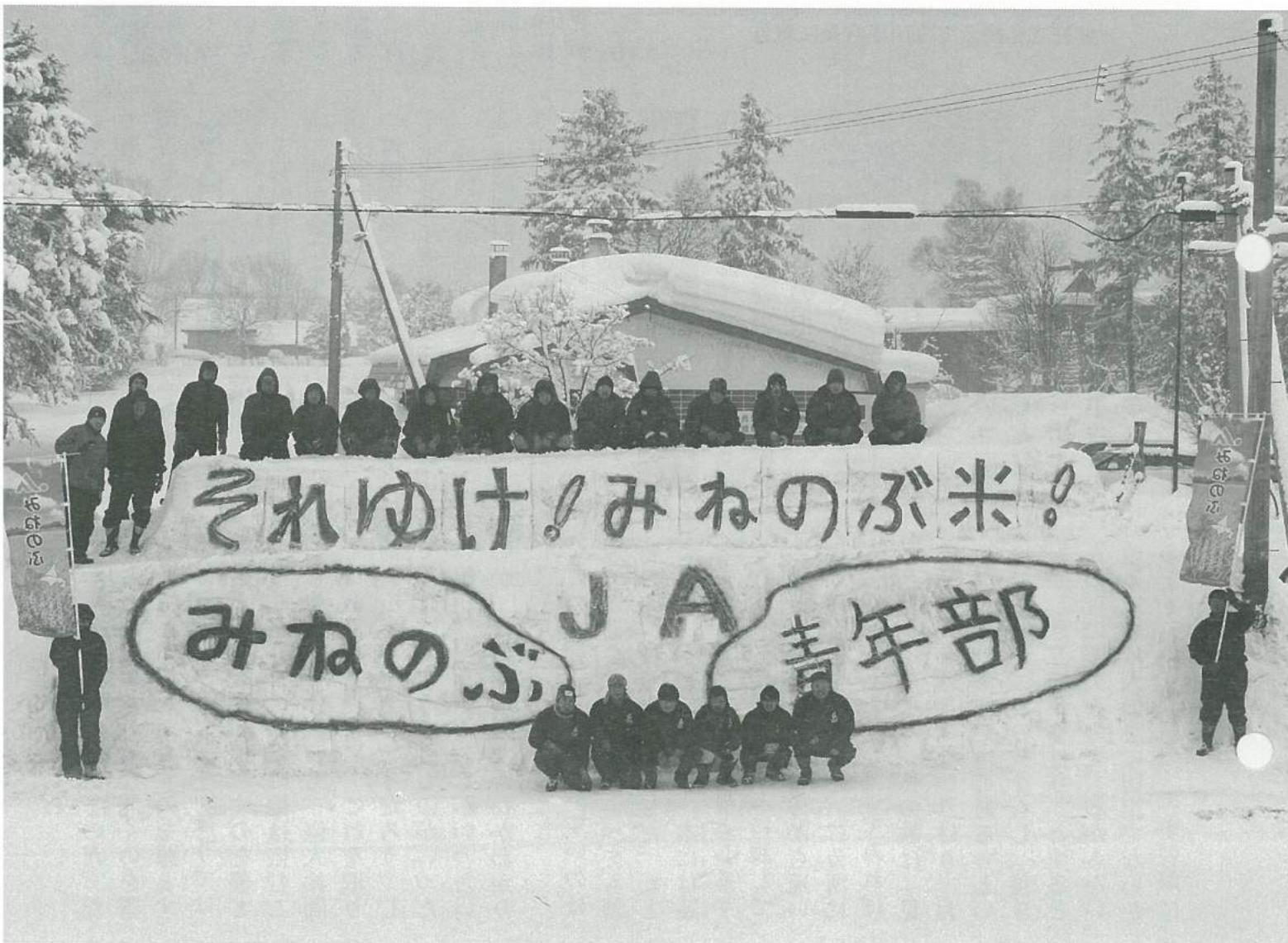


# JA みねのぶ



青年部がスノーメッセージ制作(2月21日／美唄市光珠内中央の国道12号沿い)

■発行日/平成30年3月1日/No.1391号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社

**吉村俊子さんが平成29年度  
北海道産業貢献賞を受賞**



受賞式を終えて森川組合長に報告

吉村俊子（女性部長・光珠内北）さんが、美唄市指導農業士の活動をはじめ北海道農業士初の女性会長を歴任するなど、地域農業発展・女性の参画へ貢献したとしてその功績が北海道において認められ、平成29年度の北海道産業貢献賞（農業指導）を受賞しました。

北海道産業貢献賞は、多年にわたり北海道農業の発展に貢献し、その功績が顕著な人物または団体に贈られるもので、その受賞式が2月16日に札幌市内のホテルにお

いて行われました。受賞式を終えて当JAに立ち寄り森川組合長に報告されました。

**第1回（2月定例）理事会開催**

2月21日開催の第1回（2月定期）理事会において次の事項が決定されました。

◇付議事項◇

1. 平成29年度事業決算の結果および剰余金処分案について
2. 地区別懇談会の開催について
3. 平成30年度の理事に対する資金貸付方針について
4. 就業規則等の一部改正について

おくやみ申し上げます

松田 博雄さん（82歳）2月5日

美唄市上美唄町中央

善惡の根源

翁のことばに、善惡の論は、甚だ難しい。本来を論ずれば、善もなく、悪もない。善といつて区別するから悪というものができるのだ。もともと人間の身の勝手が都合から出来たもので、私のいう人道の上のものなのだ。それゆえ、人間がなければ善惡は無い。人間があつて、そ

れからのちに善惡があるのだ。だから、人間は荒れ地を開くのを善として、田畠を荒らすのを悪とするけれども、猪や鹿のほうでは、開拓を悪として、荒らすのを善とするだろう。世の中の撻は盗むことを悪とするけれども、盗人仲間では盗みを善として、これを取り締まるほうを悪とするだろう。してみれば、どういうものがいつたい善か、どういうのもがいつたい悪か、この道理はなかなかわかりにくい。

この道理が一番見やすいのは、遠近の場合で、遠近といつても善悪といつても道理は同じだ。たとえば杭二本を作つて、一本には遠としるし、一本には近としるす。そうしてこの一本を人に渡して、この杭をおまえさんの体から遠いところと近いところと、二カ所に立てなさいと書いてみれば、すぐわかることだ。私の歌に「見渡せば遠き近きはなかりけり」おれおのれが住処にぞある」といつてあるが、この歌をもし「善きも悪しきもなかりけり」とすると、人の身に切実なので、わからない。遠い近いは人の身に切実でないからよくわかるのだ。工事の際に、

何がまつすぐか曲がつてているかを見定めるにも、あまり目に近すぎでは見えぬものだ。さりとて遠すぎるけれども、「遠山木なし、遠海波なし」といつているとおりだ。さてそこでわが身に縁の薄い遠近といふことに移して説明するのだが、遠近というものは、自分の居所がまず定まって、それから後にあるものだ。居所が定まらなければ決して遠近はない。大阪が遠いといえば関東の人だろう。関東が遠いといえば上方の人だろう。禍福でも、吉凶でも、是非でも、得失でも、みんなこれと同じだ。禍福も一つだ。善惡も一つだ。得失も一つだ。もともと一つであるものを半分を善とすれば、後の半分は必ず悪になる。それを、後の半分にも悪がないように願うのは、できないことを願うものだ。（中略）どんなことも皆同じで、ただ今もいつたとおり、通勤するときは近くのれおのれが住処にぞある」とて好いといい、火事だというと遠くて良かつたというのだ。これで良くわきまえるがよい。

**平成29年度  
期末監事監査終まる**

当JAの平成29年度期末の監事監査が2月14日から21日までの日程で、浅香代表監事、高田監事、佐々木員外監事により精力的に執行されました。監査の対象は平成29年度事業全般の業務執行結果及び事務処理結果の他、決算結果による財務諸表の適正等について検証・確認が行われました。最終日の21日には常勤理事の他に幹部職員に対して監査講評が行われました。

この懇談会は例年同様に午前と午後に開催地区を分けて全7会場で開催しますので、最寄の会場へご出席下さいますようお願い致します。多数のご出席をお待ちしています。

### J A女性部 料理講習会を開催

JAみねのぶ女性部（吉村俊子部長）では、農閑期を利用してサークル活動を行つており、1月26日に大豆サークルの11名が集まり、峰延中学校の家庭科室を借りて料



具材の下揃え



講師の前川さんが具材をのせる順番を指導

理講習会を行いました。今回の講習内容はお寿司で、ゴマ巻寿司など5種類の巻き寿司を作りました。

講師の前川和子（峰樺1区）さんの作業手順の説明に続き、寿司の具材作りに取り掛かり、薄焼きの卵焼き、しいたけ、かんぴょう等の下揃えが一斉に始まると、室内は出汁の良い香りでいっぱいになりました。

皆で鍋を囲んでお互いに味見をしながら、砂糖や穀物酢を加えていき、炊き上がったホカホカのご飯を寿司桶によそう横で、応援で参加の藤井悦子（峰樺3区）さん

が大きな鍋の中に野菜をたっぷり入れて呉汁（ごじる）の準備をしていました。

各自が持ち寄った巻き簾に海苔を敷いて寿司飯と具材をのせて、5種類の巻き寿司が完成。特に好評だったのは孫に作つてあげようと思ついた「パンダ寿司」で細かい作業がありましたが、包丁で切つてみると可愛らしいパンダが現れました。参加メンバー皆さんで出来上がつたお寿司と呉汁を食べながら、自分の家での作り方などの情報交換や春の農作業の準備の話しをする等1年ぶりに集まつた再会を楽しんでいました。大豆サークルは、今後は味噌作りを行う予定です。

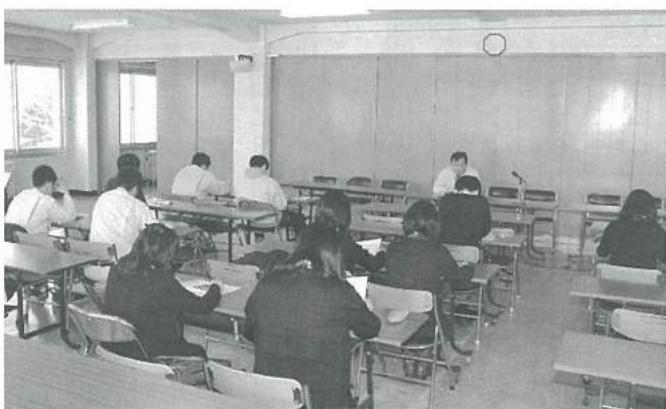
1月29日、JA三階会議室で一般職員を対象としたコンプライアンス（法令等遵守）研修会を実施しました。

### 職員対象に コンプライアンス研修会実施

講師は工藤総務課長で情報セキュリティ対策、独占禁止法について、基本事項と事例について資料を用いて詳しく説明されました。研修会の開催は出来るだけ多くの職員に参加してもらえるように、

この日に開催時間を分けて2回設定し、都合のいい研修会に受講でありますようにしました。

全国的に企業の不祥事が多発していることから、未然防止への取り組みとしてルールを確認し、法令、規範、事務手続き等に則した業務遂行や不祥事発生時のリスク等について確認することが出来ました。



ルールを確認する職員



講習会の様子

活動のイメージは、野菜作付技術等を学び野菜を作付し収穫した作物を使って調理部門で試作を重ね商品開発に繋げる。収穫した作物を使って調理グループが考案し

りーダーを決定しました。

「峰千加（ほうせんか）」とし、縛りのない世代を超えた誰もが気軽に集える会を目指し、加工販売グループ、交流グループ、研修・講習グループ、調理グループの4つのグループで展開することを決め、全体の組織役員、各グループリーダーを決定しました。

たものを加工販売グループが形にする。将来は加工販売出来る施設やカフェを開けるよう技術の修得や土台作りに奮闘しています。

また、この日は設立総会に先立つて空知農業改良普及センターの千田専門営農指導員が講師となつて加工野菜について講習会が開催され皆さん真剣に聞いていました。



設立総会に出席の皆さん

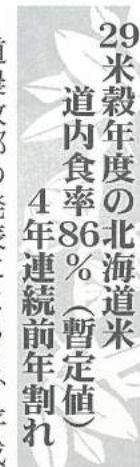
**青年部が「みねのぶ米」PRのスノーメッセージを作成**

2月21日、JAみねのぶ青年部が美唄市光珠内中央の国道12号沿いに作った雪山に「みねのぶ米」をPRするスノーメッセージを作成しました。



文字等にカラースプレーで色付け

青年部のメンバー25人ほどが集まり国道12号の除雪の雪山をタイアップで形を整え、「それゆけ! みねのぶ米」等の文字を彫りカラースプレーで色付けし完成させました。この日は風雪が横なぐりに吹き付ける天候でしたが、作業に当たる青年部メンバーの「みねのぶ米」にかける熱い意気込みが勝つているようでした。中越青年部長は「みねのぶ米が国道を往来する皆さんに少しでも認知してもらえるよう期待しています。」と述べていました。



道農政部の発表によると、平成29米穀年度（平成28年11月～平成29年10月）における北海道米の道内食率（道内の米消費量に占める北海道米の割合）が前年度より1ポイント下がり86%（暫定値）となつたと発表しました。前年度実績を下回るのは4年連続ですが、北海道が目標（米チエン）としている85%は6年連続で達成しています。

国内の米消費量が減少する中で道産米の需要量は横ばいから微増傾向にあるが、供給量が減少（前年比2・7%減）していく、27年産米からは需要量が供給量を上回る状況にあります。

平成29米穀年度は主に平成28年産米の消費期間で、道農政部によると道内消費量は前年度比1%減の30万9750トントで、うち府県産米が7%増の4万3053トント、道産米は3%減の26万6697トントでした。道内食率は平成25米穀年度が91%で過去最高を記録し、翌年度以降は低下傾向が続いている。

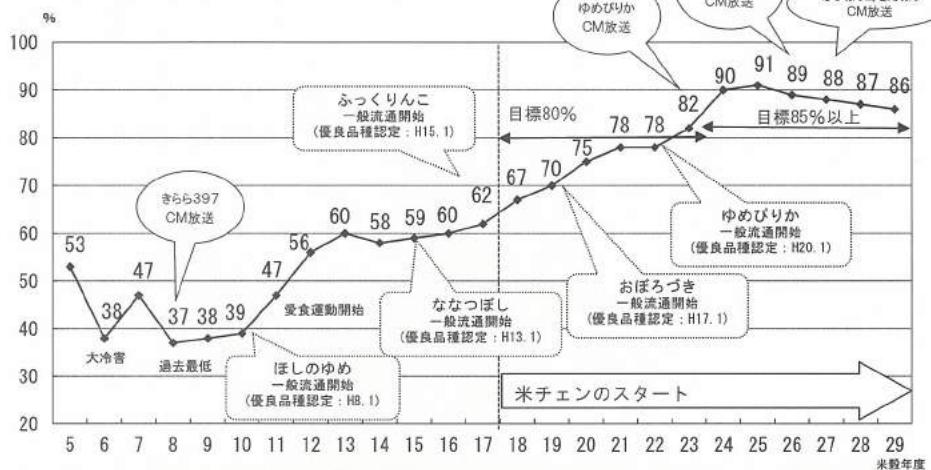
北海道が目標（米チエン）としている85%は6年連続で達成しています。

国内の米消費量が減少する中で道産米の需要量は横ばいから微増傾向にあるが、供給量が減少（前年比2・7%減）していく、27年産米からは需要量が供給量を上回る状況にあります。

北海道米の割合）が前年度より1ポイント下がり86%（暫定値）となつたと発表しました。前年度実績を下回るのは4年連続ですが、北海道が目標（米チエン）としている85%は6年連続で達成しています。

北海道米の割合）が前年度より1ポイント下がり86%（暫定値）となつたと発表しました。前年度実績を下回るのは4年連続ですが、北海道が目標（米チエン）としている85%は6年連続で達成しています。

### 北海道米の道内食率の推移



### [連載]今こそJA!～その意義と役割～

#### 第11回 JAの共済事業

JAが行っている事業で特徴的なものが共済事業です。共済事業は、組合員が基金を積み立て、自然災害などで困った時にその基金から援助する仕組みであり、その根底にあるものはまさに「助け合いの精神」です。この共済制度は北海道の農協組織が始めたものが最初と言われており、その後、全国へと広がってきました。

JAが取り扱っている共済には、火災、生命、自動車といったものがありますが、特筆すべきものとしては建物更生共済(建更)があります。一般の保険会社では地震などの自然災害に対して保険金は支払われませんが、建更は自然災害を含めた全ての災害に対応しています。また、保険業界には生・損保分離規制というルールがあり、生命保険と損害保険の両方を一つの保険会社で行うことはできないことになっていますが、共済は保険とは異なるためこうした規制はありません。いわゆる生命保険は金融庁所管の営利事業に該当し、JAの生命共済は農林水産省所管の非営利事業に分類されているのです。

この他にもJAが行う共済事業には、掛金が安く、割戻しあるなど多くのメリットがありますが、最近、日本において保険事業の拡大を狙っている外資系保険会社が「JAの共済事業は優遇され過ぎている」と主張し、一般の保険会社と同様に規制するよう日本政府に対して圧力をかけてきています。

保険と共済の違いを正しく理解し、助け合い精神の象徴であるJAの共済事業をこれからもしっかりと守っていくことが大切です。



## JAグループ通信

No.20

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。  
JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、  
組合員の皆様に定期的にお伝えします。  
各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



北海学園大学経済学部と北海道大學農学部において、学生向け授業の一環として「北海道農業の概要と、それを支えるJAグループの役割」について講義を行い、合わせて300名近くの学生の参加がありました。「安定供給には、協同組合の形式が適している」「JAの存在意義を改めて知ることができた」など、JAの名前しか知らないなかつたという学生の皆さんにも、JAグループが果たす役割を理解して頂きました。今後も、農業・JAの理解者を増やす「サポートー550万人づくり」に向けた情報発信を着実に進めて参ります。

JA北海道中央会



JA北海道信連

J Aバンクのキャラクター「ちょりス」がサンタクロースに扮し、札幌市近郊の幼稚園等8カ所のクリスマスイベントに参加しました。イベントでは、野菜あてクイズやダンス等のレクレーションのほか、ちょリスから子供達へハンドタオルをプレゼントしました。子供達はちょリスのほっぺを撫でたりと、自由に触れ合い、イベントを楽しんでいました。



ホクレン



北海道産小麦の普及拡大を目的に、札幌駅前通地下歩行空間の広場で、「2018パンマルシェ」を開催しました。道内の人気や評判のパン屋16店が出展し、北海道産小麦を100%使用したパンのほか、小豆や黒豆などの道産豆を使用したオリジナル豆パンなどを販売。閉店以前に売り切れるほどの盛況ぶりでした。今後も、北海道産小麦の魅力やおいしさを広く知つていただけるようPRしてまいります。





JA北海道厚生連

JA共済の「こども共済」が、「マザーズセレクション大賞」を受賞しました。全国のママたちが「使つてみてよかつた!」と思つた企業や商品に投票し、表彰する「信頼と好感で選ばれる賞」です。ママたちからは「トップクラスの返戻率だから」「出産前から加入できて安心でした」等の声が寄せられました。

J A 共済連北海道は、今後も安心と満足を提供に努めてまいります。



JA共済連北海道

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康新情報を発信しております。

